

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そよ風憲章」の他に「私たちが大切にしたいこと」がある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内・各ユニットに掲示しており、会議の時に全員で読み上げ周知徹底している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議・家族の会で伝えている。来客の方にも知って頂けるよう玄関に掲示してある。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と職員で散歩している途中で「グループホームそよ風」として挨拶や会話を交わしている。チラシ・パンフレットのポスティングを行い見学を促している。チラシには無料相談や見学会を行っている旨が記入してある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	週2回「買物の日」として近くの商店に買物に行く。「外食レク」では飲食店で顔馴染になり特注等の協力をお願いしている。毎年桐生祭りや近くの神社の宵祭りに参加して席を用意して頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	新聞の折込み広告やチラシのポスティングで無料相談・見学会を行っていることを知らせ来所者に介護相談や施設案内を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員会議の時に評価項目ごとに説明して改善すべきところは改善した。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	グループホームの現況報告や行事計画(報告)を行い、質問や意見を求めて実際の内容の充実に役立てた。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	センター長・管理者は市役所に行く機会が多く、他事業所の情報や疑問点等を確認して質の向上に努めている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	入居者やご家族に対して情報は発信している。必要と思われる方には制度の説明をしている。現在は2名の入居者が利用している。また職員会議で定期的に制度について学んでいる。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員の気付きが大切であることを会議で説明して些細な変化でも報告・記録を徹底して職員全員が防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>まず相手の相談や訴えを傾聴して適格なアドバイスをしている。入居希望者、ご家族の中で介護保険制度やグループホームを知らない方も居るので専門用語を使わず丁寧に説明をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>その日の勤務者がユニット全員の入居者に声をかけている。また部屋担当者を設け、より話しやすい雰囲気づくりも行っている。入居者の意向や不満はその都度改善してきている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には必ず近況報告をしている。面会の少ない家族や、入居者に変化が生じた場合は電話にて報告している。小遣いの使い道や外出レク外食レク等の状況はレシート、領収書にて報告(郵送)している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>グループホームの入り口に「意見箱」を設置している。入居時には重要事項説明書に苦情受付担当者名や、市や国保連の苦情窓口の電話番号が記載されている。入居者、ご家族からのご意見は管理者に報告している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月グループホーム会議、全体会議の他、同じそよ風の他事業所と一緒にセクション会議に参加して意見や提案を聞き話し合う機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事に合わせて必要な職員数を確保している。また入居者の急変等には残業や早出をお願いして対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はあるが異動前に新たな職員が馴染んでから異動することになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本人の経験や雇用形態に合わせて役割を決め、研修会には積極的に参加している。業務分担も年に一度ではなく必要と思われるごとに柔軟に変えて職員の成長につなげている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者(介護支援専門員)は桐生市、みどり市のケアマネ研修に参加して情報を共有している。また近隣のグループホームに訪問して管理者同士の交流を図り情報交換をしている。必要な情報は職員にも提供している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会社では匿名であっても職員からの悩み相談を受け付けている。年に2回他センターの職員との親睦会が開催され、年に3~4回センター内で食事会を行っている。ま保養所があり職員の家族にも利用して頂ける制度がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回成績優秀センターを表彰している。今までは昇給や昇格は正社員に限られていたが、契約社員やパート社員にも年2回査定制度が今秋より始まった。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族や担当ケアマネージャーからの相談であっても本人が見学に来た時や訪問面接時に主訴を聞いて出来るだけ不安の解消に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の話を傾聴しながら家族の主訴を聞き出して一緒に考え最善の方法を見つけ出す努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方であっても在宅生活が十分に送れる方には在宅サービスの種類や利用方法等の説明をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人の見学は必ず行っている。その際には予約した居室を実際に見て頂き、一日のスケジュールの説明や現入居者とのふれあいが出来る環境を提供して出来る限り不安を取り除く工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員の会話の時間を多くとり入居者と親近感が湧くように努めている。その際に入居者からの相談を受けることもあるが職員の話も入居者が一緒に考えてくれることもある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状報告は適時している。また3ヶ月に1度ケアプラン配付時に内容の説明をして家族の要望等を伺い一緒に検討をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前のケアマネからの資料や情報、入居後本人の話から家族関係を把握している。面会時には居室に誘導してゆっくり話が出来る環境を作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族から面会制限の無い限り、面会時間帯を長く設けて知人、友人、親族などの面会を歓迎している。また家族に協力して頂き本人が入居前に利用していた美容室や馴染みの店に出掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席の考慮をはじめ、職員が声掛けをしながら会話の橋渡しをしている。また入居者の反応を見ながら交流を促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居前後に病院のSWや特養の相談員に情報提供をしている。退居時には「また何かありましたらご相談ください」と言葉を添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事内容や嗜好品、居室のレイアウトなど本人の好みに合うように柔軟な対応をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族と面接をして聞き取った情報を職員全員が把握出来るように資料を開示している。入居後も本人からの会話から新情報が出た場合は申し送りノートや会議、カンファレンスで再度、周知徹底している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日のスケジュールはあるが、入居者の体力やその時体調、精神状態により全入居者に対して個々の対応を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が安全で快適に過ごして頂けるように、主治医との連携や家族の意見を聞きながら、それを基にカンファレンスを開き、ケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しをしている。状態に変化があった場合や必要と判断した時は随時カンファレンスを行いケアプランを作り直している。その際、医療面は主治医、生活面は家族にも意見を伺っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を時系列に記入する方式で備考欄も設けて職員が入居者の様子を記入している為、その日の入居者のことを全職員が共有出来る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の心身状態が安定して退居後の環境がい、本人家族の希望があればセンター内の居宅・デイサービスの利用は可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員や消防団員に参加して頂いている。年2回の避難訓練には消防署員からの指導や問答が組込まれている。月に2～3回ボランティアの慰問が来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			入居中は他の介護保険サービスは利用できないが退居の予定がある場合は本人、家族の意向通り他のケアマネジャーに支援をお願いすることも視野に入れている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援2の方が入居の時に今後のケアマネジメントについて地域包括支援センターの職員から助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認はしている。当グループホームの協力医は週1回の往診と必要時の受診に協力して頂いている。他の医療機関を主治医にした場合は家族対応であるが家族に情報提供をしてスムーズに受診が出来るように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人に合った言葉掛けを周りの方へ配慮しながらしている。個人情報や資料の持出しは禁止している。不用の書類はシュレッダーで処分している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の状態を理解しながら口頭で説明をしている。理解力が低下している方にはジェスチャーにて分かりやすく表現して自己決定ができるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースで生活ができるように本人の意向を伺いながらケアプランを作成している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の服装は本人の好みで選んだり、職員と一緒に選んでいる。ヘアカットは馴染みの床屋に家族と行く方がいる。開所当初から来ている美容師とコミュニケーションを取りながら似合う髪型を相談にのって頂いてカットしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者の間に入ってコミュニケーションを取りながら一緒に食べている。その際、入居者の好き嫌いを確認している。テーブル拭きやテーブルマット敷き、下膳を手伝って頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員と一緒に買物に行き好みのものを購入したり、家族に差入れして頂いている。食品の内容にもよるが職員が管理したり、居室に持ち込むこともできる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	スケジュールでトイレ誘導時間帯はあるが個々のペースに合わせて誘導している。立位不安定の方でも日中は紙パンツとパッドの組合せでトイレで排泄介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外毎日どちらかのユニットで入浴日がある。また午前、午後にも分かれている為、本人の好みや生活ペースで対応ができる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、個々のペースで休んで頂いている。居室の電気や温度調節も一人一人適した温度を確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(洗濯物たたみ、モップ掛け)やレクリエーションで本人に滴した役割や手伝いをして頂いている。重度化した入居者様に対して自ら声掛けをして下さる方もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力がある方はご家族の承諾を得て少額のお金を管理して頂いている。職員と一緒に買物に行き、自分の財布から自分で支払いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食・外出レクの他、散歩や日光浴を行っている。また花の好きな方にはベランダに出て花の世話をを行い気分転換を図って頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体の行事としてだけではなく、希望者には可能な限り職員が同行して買物や散歩に出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の承諾を得た方には職員が介助して電話の使用をしている。手紙はポストへの投函、先方から来た手紙を本人に届けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室に案内して椅子を提供しお茶を出してゆっくり談話できる環境を提供している。お帰りの際は本人と職員でエレベーター前や1階の玄関まで見送っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は原則として行っていない。		今後、主治医からの指導や緊急的に必要になった場合は家族に報告して時間、理由を記録に残す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エントランスホールの階段のみ転落防止の為に鍵を掛けている。入居者の各居室には本人から希望がある場合のみ鍵を掛ける。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、居室に入る際には必ずノックして声掛けをしている。夜間帯は2時間毎に巡視をして安否確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や針が使用できる方は職員の見守りの下使用して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット報告書や業務処理報告書を会議で公表して情報を共有し事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルに沿って行動している。		勉強会や訓練をもっと増やして行く。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行い、地域の消防団長にも建物の構造や非難口の確認をして頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前のアセスメントを参考に家族に説明をしている。入居後も変化に応じて報告し話し合いをしている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い変化を確認している。表情や反応に異変を感じた時には再度バイタルチェックを行い、デイサービスの看護師や主治医に報告して指示を仰いでいる。個人記録や申し送りノートに記録して全職員が周知する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの裏表紙に本人の服薬情報が記されている。服薬管理は職員が行い、適時入居者に手渡しして飲み込むまで見守ることを徹底している。服薬後の変化も観察している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便を確認してチェック表に記録している。十分な水分補給や乳製品・食物繊維の多い食材を取り入れるようにメニューの工夫をしている。また、歩行練習やうめぼし体操、ラジオ体操などの運動も毎日の日課として行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全入居者が口腔ケアを行っている。自分でできる方は見守り、声掛けのみ、できない方は職員が介助して行っている。義歯のかたは夕食後にお預かりして洗浄剤に浸けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で食事を提供している。毎月体重の増減をチェックして摂取量を調節している。水分は1200CC以上を目安に補給を促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルや感染症対策委員会(毎月会議を開催して全職員に報告をしている)を設置して入居者と職員の感染を防ぐ努力をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は月1回検便を実施している。調理器具や食器は塩素系、アルコール系を使い分けて消毒をしている。食材は週2回買物に行き管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	通りの曲がり角と入り口に看板を設置している。玄関内には季節感が味わえる装飾がしてあり普段の様子がわかるように「グループホームだより」を貼っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は浴室以外は全て障子を使用している為、日差しが強くても軟らかい明るさが確保できている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前のホール、ユニット間にある事務所にソファや椅子を置き自由に利用できるようにしている。行事やレクは2ユニット合同で行い、気の合う入居者同士で会話せれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく自宅で使っていた物を持ってきて頂いている。(家具、人形、仏壇、家族写真等)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け、必要に応じてホールや居室の換気扇を使用している。ホールの温度と湿度を1日2回確認して温度は22～23℃、湿度は50%以上を保つように調節している。個々の居室は好みに合わせてある程度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動経路や浴室、トイレには手すりを設置している。床は全てバリアフリーである。窓は転落防止の為15cm位しか開かないように安全面で工夫している。ホールの椅子は2種類用意して身体機能や好みに合わせて選んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には本人の顔写真と氏名が貼ってある。トイレの表示も見やすい位置に大きな字で書いてある。常に入居者の行動を見守り、混乱しそうになった時は速やかに誘導をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場で日光浴(外気浴)をしている。桜の時期には花見をしたり、晩秋は落ち葉掃きをしている。ベランダにはプランター菜園や花を植えて成長を楽しんでいる。また洗濯物や布団を干して生活観も味わっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・5月より下肢筋力を維持する為に体操・レクの時間前に歩行訓練を実施している。・入居者様が退屈しないように毎日のレクの他に毎月2回以上行事を行っている。また1階デイサービスホールに毎月1回以上慰問が来るので参加している。(音楽療法:年2回参加)・外食、外出は全員で行く場合と2~3人(又は1人)を職員が同行する等個別性も大切にしている。・2ユニット間と事務所が開放されていて入居者様と職員が自由に行き来できる為、閉塞感なく過ごせる。